

# 社会医療法人宏潤会 大同病院 2025プラン

平成31年1月 策定  
令和6年6月 一部改訂

## 【大同病院の基本情報】

医療機関名：社会医療法人宏潤会 大同病院

開設主体：社会医療法人

所在地：愛知県名古屋市区白水町9番地

許可病床数：404床

(病床の種類別) 一般病床 394床、結核病床 10床

(病床機能別) 高度急性期311床、急性期 93床 (A棟7階、A棟9階)

稼働病床数：同上

(病床の種類別) 同上

(病床機能別) 同上

診療科目：

内科、老年内科、血液・化学療法内科、糖尿病・内分泌内科、腫瘍内科、循環器内科、呼吸器内科、消化器内科、内視鏡内科、脳神経内科、腎臓内科、人工透析内科、リウマチ内科、緩和ケア内科、放射線科、放射線診断科、放射線治療科、精神科、外科、消化器外科、乳腺外科、小児外科、呼吸器・心臓血管外科、脳神経外科、整形外科、リハビリテーション科、麻酔科（ペインクリニック）、小児科、小児アレルギー科、小児科（新生児）、産婦人科、泌尿器科、耳鼻咽喉科、眼科、皮膚科、救急科、臨床検査科、病理診断科、歯科、歯科口腔外科

職員数：837名

- ・ 医師 126名
- ・ 看護職員 429名
- ・ 専門職（歯科医師・薬剤師・コメディカル）181名
- ・ 事務職員 101名

【1. 現状と課題】

① 構想区域の現状

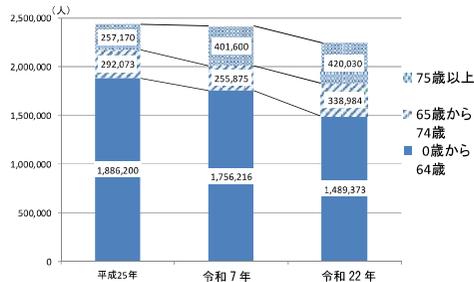
(人口の見通し)

- 名古屋医療圏は、県内人口の3割以上が集中しており、全国的にも大阪市医療圏、札幌医療圏に次いで3番目に人口が多い2次医療圏となっています。
- 総人口は県全体と同様の推移で減少します。65歳以上は増加していき、県全体より増加率は高くなっています。

<人口の推移> ※ ( ) は平成25年を1とした場合の各年の指数

区分	総人口			65歳以上人口					
							75歳以上人口		
	平成25年	令和7年	令和22年	平成25年	令和7年	令和22年	平成25年	令和7年	令和22年
県	7,434,996	7,348,135	6,855,632	1,647,063	1,943,329	2,219,223	741,801	1,165,990	1,203,230
	(1.00)	(0.99)	(0.92)	(1.00)	(1.18)	(1.35)	(1.00)	(1.57)	(1.62)
名古屋・尾張中部	2,435,443	2,413,691	2,248,387	549,243	657,475	759,014	257,170	401,600	420,030
	(1.00)	(0.99)	(0.92)	(1.00)	(1.20)	(1.38)	(1.00)	(1.56)	(1.63)

<名古屋・尾張中部構想区域>



(医療資源等の状況)

- 病院数が多く、また、大学病院が2病院あり、救命救急センターも7か所整備されています。人口10万対の病院の一般病床数や医療従事者数は県平均を大きく上回っており、医療資源が豊富です。
- DPC調査結果(DPC調査参加施設:24病院)によると、圏域内において、ほぼ全ての主要診断群の入院及び救急搬送実績があり、緊急性の高い傷病(急性心筋梗塞・脳卒中・重篤な外的障害)及び高齢者の発生頻度が高い疾患(成人肺炎・大腿骨骨折)の入院実績があり、病院数及び実績数が他圏域と比べ著しく多いことから、圏域内の急性期入院機能が充実していると考えられます。
- 消防庁データに基づく救急搬送所要時間については県平均とほぼ同様であり、DPC調査データに基づく緊急性の高い傷病(急性心筋梗塞・再発性心筋梗塞、くも膜下出血・破裂脳動脈瘤、頭蓋・頭蓋内損傷)の入院治療を行っている施設までの移動時間は、30分以内で大半の人口がカバーされていることから、医療機関への交通アクセスや医療機関の受け入れ体制等に大きな問題が生じていないと考えられます。

- 高度な集中治療が行われる特定入院料の病床については、平成28年3月現在、圏域内(18病院)において、救命救急入院料・特定集中治療室管理料(1CU)・新生児特定集中治療室管理料(NICU)・総合周産期特定集中治療室管理料(MFICU)・ハイケアユニット入院医療管理料(HCU)・新生児治療回復室入院医療管理料(GCU)の届出がされています。
- 平成25年度(2013年度)NDBデータに基づく特定入院料の名古屋医療圏の自域依存率は高い状況にありますが、脳卒中ケアユニット入院医療管理料(SCU)については尾張東部医療圏へ患者の流出があります。尾張中部医療圏の自域依存率は0%であり、主に名古屋医療圏及び尾張北部医療圏へ患者が流出しています。

<医療資源等の状況>

区分	愛知県①	名古屋・尾張中部②	②/①
病院数	325	137	—
人口10万対	4.4	5.6	127.8%
診療所数	5,259	2,166	—
有床診療所	408	130	—
人口10万対	5.5	5.3	97.1%
歯科診療所数	3,707	1,517	—
人口10万対	49.9	62.3	124.8%
病院病床数	67,579	25,978	—
人口10万対	908.9	1,066.7	117.4%
一般病床数	40,437	16,748	—
人口10万対	543.9	687.7	126.4%
療養病床数	13,806	4,493	—
人口10万対	185.7	184.5	99.3%
精神病床数	13,010	4,604	—
人口10万対	175.0	189.0	108.0%
有床診療所病床数	4,801	1,573	—
人口10万対	64.6	64.6	100.0%

区分	愛知県①	名古屋・尾張中部②	②/①
医療施設従事医師数	14,712	6,538	—
人口10万対	197.9	268.5	135.7%
病床100床対	20.3	23.7	116.9%
医療施設従事歯科医師数	5,410	2,270	—
人口10万対	72.8	93.2	128.0%
薬局・医療施設従事薬剤師数	10,525	4,065	—
人口10万対	141.6	166.9	117.9%
病院従事看護師数	36,145	14,310	—
人口10万対	486.1	587.6	120.9%
病床100床対	49.9	51.9	104.1%
特定機能病院	4	2	—
救命救急センター数	22	6	—
面積(km)	5,169.83	368.34	—

(入院患者の受療動向)

【名古屋医療圏】

- 入院患者の自域依存率は、高度急性期、急性期、回復期は9割程度と非常に高い水準にあります。また、他の2次医療圏や県外からの患者の流入も多くみられます。

<平成25年度の名古屋医療圏から他医療圏への流入入院患者の受療動向>

(単位:上段 人/日、下段:%)

患者住所地	医療機関所在地													合計
	名古屋	海部	尾張中部	尾張東部	尾張西部	尾張北部	知多半島	西三河北部	西三河南部東	西三河南部西	東三河北部	東三河西部	県外	
名古屋医療圏	高度急性期	1,321	*	*	154	*	16	16	*	*	*	*	*	1,507
		87.7%	—	—	10.2%	—	1.1%	1.1%	—	—	—	—	—	100.0%
急性期	3,735	*	16	414	10	48	16	*	*	*	*	*	*	4,239
	88.1%	—	0.4%	9.8%	0.2%	1.1%	0.4%	—	—	—	—	—	—	100.0%
回復期	3,819	79	26	270	13	56	20	*	*	21	*	*	21	4,325
	88.3%	1.8%	0.6%	6.2%	0.3%	1.3%	0.5%	—	—	0.5%	—	—	0.5%	100.0%
慢性期	2,191	36	119	117	12	84	46	29	*	22	*	16	71	2,743
	79.9%	1.3%	4.3%	4.3%	0.4%	3.1%	1.7%	1.1%	—	0.8%	—	0.6%	2.6%	100.0%

＜平成 25 年度の他医療圏から名古屋医療圏への流入入院患者の受療動向＞  
(単位：上段 人/日、下段：％)

医療機関所在地	患者住所地														合計
	名古屋	海部	尾張中部	尾張東部	尾張西部	尾張北部	知多半島	西三河北部	西三河南部東	西三河南部西	東三河北部	東三河南部	県外		
名古屋医療圏	高度急性期	1,321	88	50	61	33	63	99	20	12	20	*	11	48	1,826
		72.3%	4.8%	2.7%	3.3%	1.8%	3.5%	5.4%	1.1%	0.7%	1.1%	—	0.6%	2.6%	100.0%
	急性期	3,735	188	123	136	65	124	213	34	26	39	*	24	141	4,848
		77.0%	3.9%	2.5%	2.8%	1.3%	2.6%	4.4%	0.7%	0.5%	0.8%	—	0.5%	2.9%	100.0%
	回復期	3,819	170	112	174	54	117	163	30	16	32	*	19	124	4,830
		79.1%	3.5%	2.3%	3.6%	1.1%	2.4%	3.4%	0.6%	0.3%	0.7%	—	0.4%	2.6%	100.0%
慢性期	2,191	80	33	130	23	47	47	17	*	23	*	*	16	2,607	
	84.0%	3.1%	1.3%	5.0%	0.9%	1.8%	1.8%	0.7%	—	0.9%	—	—	0.6%	100.0%	

・厚生労働省から提供された「必要病床数等推計ツール」のデータを基に作成。  
・レセプト情報等活用の際の制約から、集計結果が10（人/日）未満となる数値は公表しないこととされており、「\*」と表示している。

【尾張中部医療圏】

○ 入院患者の自域依存率は、高度急性期、急性期、回復期が非常に低くなっており、名古屋医療圏へ多くの患者が流出しています。また、慢性期については、名古屋医療圏から多くの患者が流入しています。

＜平成 25 年度の尾張中部医療圏から他医療圏への流出入院患者の受療動向＞  
(単位：上段 人/日、下段：％)

患者住所地	医療機関所在地														合計
	名古屋	海部	尾張中部	尾張東部	尾張西部	尾張北部	知多半島	西三河北部	西三河南部東	西三河南部西	東三河北部	東三河南部	県外		
尾張中部医療圏	高度急性期	50	*	*	*	*	19	*	*	*	*	0	*	*	69
		72.5%	—	—	—	—	27.5%	—	—	—	—	—	—	—	100.0%
	急性期	123	*	82	*	16	46	*	*	*	*	0	*	*	267
		46.1%	—	30.7%	—	6.0%	17.2%	—	—	—	—	—	—	—	100.0%
	回復期	112	*	111	*	19	46	*	*	*	*	0	*	*	288
		38.9%	—	38.5%	—	6.6%	16.0%	—	—	—	—	—	—	—	100.0%
慢性期	33	*	104	*	*	25	*	0	0	*	0	*	*	162	
	20.4%	—	64.2%	—	—	15.4%	—	—	—	—	—	—	—	100.0%	

＜平成 25 年度の他医療圏から尾張中部医療圏への流入入院患者の受療動向＞  
(単位：上段 人/日、下段：％)

医療機関所在地	患者住所地														合計
	名古屋	海部	尾張中部	尾張東部	尾張西部	尾張北部	知多半島	西三河北部	西三河南部東	西三河南部西	東三河北部	東三河南部	県外		
尾張中部医療圏	高度急性期	*	*	*	*	*	*	*	*	0	*	*	*	*	*
		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	100.0%
	急性期	16	*	82	*	*	*	*	*	0	*	*	*	*	98
		16.3%	—	83.7%	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	100.0%
	回復期	26	12	111	*	26	*	*	*	0	*	*	*	*	175
		14.9%	6.9%	63.4%	—	14.9%	—	—	—	—	—	—	—	—	100.0%
慢性期	119	21	104	*	30	15	*	0	0	0	0	0	*	289	
	41.2%	7.3%	36.0%	—	10.4%	5.2%	—	—	—	—	—	—	—	100.0%	

② 構想区域の課題

- 大学病院が2病院あり、救命救急センターも7か所整備されている等、高度な医療を広域に支える役割があり、今後も高度・専門医療を確保し、緊急性の高い救急医療について、他の構想区域との適切な連携体制を構築していく必要があります。
- 人口が多く、面積も広いため、構想区域内の医療提供体制の地域バランスに留意する必要があります。
- 回復期機能の病床を確保する必要があります。

③ 自施設の現状

(1) 理念 「皆様の信頼と満足」それを極めることが私たちの使命です

(2) 基本方針

1. 患者の権利を尊重します
2. 医療の質の向上に努めます
3. 地域社会に貢献します

(3) VISION

未来へのモデルとなる予防・医療・介護ネットワークを創る

- 高度急性期医療を追求する
- 最高の包括ケアネットワークを確立する
- 未来を担う現役世代を救ける

(4) 実績 (2023 年度)

・届出入院基本料:

一般病棟入院基本料 (7 対 1)	350 床
結核病棟入院基本料	10 床
特定集中治療室管理料 3	10 床
新生児特定集中治療室管理料 2	6 床
新生児治療回復室入院医療管理料	9 床
小児入院医療管理 2	19 床
小児入院医療管理 4	37 床

・診療:

入院患者延数	103,441人
病床利用率	70.9%
平均在院日数	9.3日
在宅復帰率	98.4%
外来患者延数	94,096人
初診患者件数	7,873人
初診紹介患者件数	5,722人
紹介率	72.8%
逆紹介患者件数	8,868人
逆紹介率	112.8%
救急患者総数	26,867人
救急車搬送患者件数	7,470人
小児救急患者件数	10,046人

(5) 自施設の特徴

- ・当院が担う医療機能は、高度急性期医療と急性期医療である。
- ・当院の医療圏は名古屋・尾張中部医療圏であるが、知多半島医療圏に隣接しており、同医療圏からの患者も多く受け入れている。

(6) 自施設の担う政策医療

下記のように5 疾病 6 事業等へ取り組んでいる。

- ・がん: 2020 年に、愛知県がん診療拠点病院を認可された。法人内の事業所とともに、予防、がん医療、在宅医療を含む緩和ケア等、全ての疾病時期におけるがん対策を実施している。
- ・脳卒中: 多職種から構成される脳卒中チームを中心に、24 時間 365 日急性期の脳卒中診療を行なっている。機械的血栓回収療法が可能であり、地域において脳卒中治療の中心的役割を担う。
- ・心血管疾患: 循環器科医師が夜間・休日を含めて院内に常駐し、常に緊急 PCI が可能である。地域医療機関からの要請に応える循環器科医師専用ダイヤル、地域からの救急要請に応えるドクターカーを配備し、緊急対応を厚くしている。
- ・糖尿病: 教育入院と、外来での糖尿病教室に取り組んでいる。地域周産期母子医療センターの役割として、妊娠糖尿病、糖尿病合併妊娠の患者に、インスリン自己注射、自己血糖測定、食事療法なども指導している。
- ・精神疾患: 精神科医 2 名が、精神疾患を有する救急入院患者をサポートしている。
- ・救急医療: 2 次救急施設として、年間 7,000 台を超える救急搬送に対応している。ドクターカーを保有し、地域の救命率向上に寄与している。
- ・周産期医療: 2019 年に地域周産期母子医療センターに認定された。地域の診療所・助産所・大学病院と連携のうえ、ハイリスク分娩も含め安全な周産期医療に取り組んでいる。
- ・小児医療: 2023 年に NICU を 6 床、GCU を 9 床に増床し、新生児治療体制を整えた。24 時間 365 日小児科医師が在籍し、名古屋・尾張中部医療、知多半島医療圏のほぼ全域から患児が受診している。

④ 自施設の課題

- ・当院の特徴を高める、すなわち高度急性期・急性期機能を追及することにより、地域貢献する必要がある。
- ・その上で、かかりつけ医等への支援を通じて地域医療の確保を図る必要がある。
- ・当院の退院患者の 10~14%が回復機能を持つ病院への転院や、介護施設に入所している。これらの病院や施設との連携をさらに強化する必要がある。

【2. 今後の方針】

① 地域において今後担うべき役割

- (1) 地域医療支援病院の承認を得られるよう、準備を継続する。  
 これまで以上に、紹介患者への医療提供、かかりつけ医等への積極的逆紹介、医療機器の共同利用、救急医療の提供、地域の医療従事者への研修を実施する。
- (2) 高度急性期医療、急性期医療の機能をより高め、地域の中心的医療機関であり続ける。  
 高度急性期医療、急性期医療の機能を高めるために、心臓血管外科の独立・機能強化を図る。地域の医療機関、介護施設とは、すでに機能分化のもと強い連携を実行しており、さらに盤石な体制を構築する。

② 今後持つべき病床機能

- 高度急性期及び急性期病床の継続

③ その他見直すべき点

- 特に見直すべき点はない。

【3. 具体的な計画】

① 4機能ごとの病床のあり方について

<今後の方針>

	現在 (令和5年度病床機能報告)		将来 (2025年度)
高度急性期	311	→	311
急性期	93		93
回復期			
慢性期			
(合計)	404		404

<（病棟機能の変更がある場合）具体的な方針及び整備計画>

- 地域医療支援病院の要件を満たすための設備整備

<年次スケジュール>

	取組内容	到達目標
2024年度	○地域医療支援病院の準備 ○地域医療支援病院の申請	○地域医療支援病院の承認
2025年度	○地域医療支援病院の責務 を履行	

② 診療科の見直しについて

<今後の方針>

	現在 (本プラン策定時点)		将来 (2025年度)
維持		→	
新設		→	
廃止		→	
変更・統合	呼吸器・心臓血管外科	→	呼吸器外科 心臓血管外科

<（診療科の見直しがある場合）具体的な方針及び計画>

- 心臓血管外科手術の稼働を目指す。

③ その他の数値目標について

医療提供に関する項目

- 病床稼働率：85%
- 手術室稼働率：80%
- 紹介率：75%
- 逆紹介率：115%

経営に関する項目

- 人件費率 50%
- 医業収益に占める人材育成にかかる費用（職員研修費等）の割合：0.5%

【4. その他】

以上より、地域での病院機能分化のもとで、当院は高度急性期・急性期機能の中心的役割を果たし続ける考えです。